

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 1日

事業所名 みつばち加神アフタースクール

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	63%	38%	利用者のニーズに応じて、配置の工夫をしています。	ワンフロアなため、クールダウンスペースの確保が必要です。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		職員数の問題はないです。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	一人の負担を減らしていけるよう、均等に業務の振り分けを行っています。	日々のミーティングや全体ミーティングを通して、意見交換を行っています。また、風通しの良い職場を目指し、職員間の関係性も深めていきたいです。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		アンケートの他にも、個人懇談や毎日の送迎等で、保護者様との話しも参考に、業務改善に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	SNSを利用して、利用者の姿を見ていただいています。	HPやSNSを通して、利用者の活動姿やお便りの掲載をしています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後、第三者による外部評価を検討していきたいです。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		年に数回、全体研修をおこなっています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		より良い支援を提供していくために、日ごろからアセスメントを適切に行い、支援計画の作成に努めています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%		発達検査等の検査結果を参考に、適切な支援を行っています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	実際に、利用者の声を聞き、活動プログラムに取り入れています。	決められた時間の中で、利用者のために最善の選択を行い、有意義な時間を経験させていきたいです。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		マンネリ化しないよう、季節の行事や楽しい企画を考え、予定を立てています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		平日は時間内で課題をこなしていくことは難しいので、関わりの中でそれぞれに合った支援、対応を心掛けています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	利用者の変った様子があれば、記録し、原因の追究に努めています。	常に利用者の課題やニーズは変化していくので、今後も見守りながら、適切な支援を行っています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	毎日ミーティングを行い、情報を共有し、同じ認識で支援を行っているようにしています。	それぞれの職員が、いつでも周りの職員をフォローできるように、状況をしっかり見ながら支援を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%		その日に起きた問題等は、その日の内に解決できるよう、迅速に対応しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		記録をもとに支援を考えていき、利用者の苦手をしている部分を、少しでもできるように近づけていけるような支援を行っています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		定期的なモニタリングを行い、必要に応じて見直しの判断をし、より良い放課後等デイサービスとして向上を図っていきます。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		ガイドラインの総則に遵守して、質の高い支援を行っていけるよう努めていきます。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		その会議に適したものを参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者様や、学校の先生と関係を築けたことで、情報の共有を行っています。	学校とデイサービスでの支援を一貫していくことで、利用者が円滑に過ごせるよう、今後も情報の共有に努めていきます。
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	38%	63%		専門の相談員やその者に詳しい者が、情報等の提供に努めています。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		情報共有できている機関もあれば、連携を取れていない機関もあるので、連携を取っていけるように努めていきます。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		研修を受けた者が、全職員に周知できるようにしています。今後も、研修に参加していきます。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	63%	38%		年に一度であるが、地域の方や障がいのない子どもと交流できるイベントを企画しています。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		専門の相談員が参加しています。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や、毎日の送迎、懇談等で、伝える場を設けています。	今後もより良い関係を築いていき、同じ認識を持ち、より良い支援を行っていけるよう努めていきます。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%		保護者に寄り添いながら、子どものより良い利益につなげていきます。
保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約の際に、きちんと説明をしています。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者様の悩み等を解消できるように、尽力を尽くしています。	悩みや相談等での困り事に対して、早急にお返事できるよう、職員同士で話しをして。解決に努めています。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	38%	63%		保護者様のニーズに応じて、保護者様が交流できる企画も検討していきます。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		苦情があった際は、職員全員で話し合い、改善に努め、迅速かつ丁寧に対応を心掛けています。
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	会議に参加できなかった職員には、後日改めて会議の内容を伝え、全員に周知できるようにしています。	年間計画や、毎月のお手紙、HPやSNSによる子どもたちの活動姿を、保護者様に発信しています。
	34	個人情報に十分注意している	100%	0%		個人情報に十分注意して、支援に努めています。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		適切な支援を行っていけるよう、日々学ぶ意識を持ちながら努めています。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		以前は行っていましたが、コロナにより開催できていなかったため、状況を見て、再開していきたいと思えます。

非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		契約時や都度、マニュアルが改定されたら、お知らせしています。HPにも掲載しています。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		毎月、テーマに沿った訓練を実施しています。子どもたちが安全に過ごせるよう努めています。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に数回、全体研修を設けています。	内部、外部研修を通して、虐待防止に努めています。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		身体拘束を行っていません。気持ちを落ち着かせるためのスペースを確保しています。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		保護者様の意見書の元、対応しています。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハットがあれば、作成し、職員間で共有しています。ヒヤリハットの件数を減らしていけるよう、気をつけて支援していきます。